

C-87 周径測定についての一考察(才1報)

東横学園女短大 ○角谷和子 西村清子 岡村千鶴子

目的 被服構成の基礎資料としての身体各部の測定法のうち、特に誤差が多くかつ振り返り時の補正が多い下半身部の身体測定について正確な測定値を得ることに注目し、この目的のための使用に簡便なスケールを考案試作し、これを用いた測定結果について評価する。

方法 被検者として女子大生(18才~20才)339名を対象にし、従来行なわれている腰囲り測定法並びに本スケールによる下半身部の最大周径の測定法を行ない、その結果を比較検討した。尚同一被検者のうち、任意に選んだ約1/3の111名については、下半身部の最大周径の測定値より算出した身幅の大裁女物単衣長着を作り着用させて身幅の適否を検討した。

結果 測定結果は従来の計測法による腰囲平均が89.48cm、本スケールによる最大周径平均は93.15cmであり、両者の差の最大値は10.0cm、差の最小値は0cmであった。下半身部周径の測定に本スケールを用いることにより、熟練度の如何によらず再現性のある正確な数値を速やかに得ることができた。この値による大裁女物単衣長着の着用結果からもその優秀性が認められ、和服の身幅決定にはこのスケールによる測定法が最善であるという結果を得た。本報告では和服の着用実験を行なった段階であるが、本スケールはスカート製作のための腰囲り測定にも適用可能である。